

受験が子どもの生活に 与える影響を考える

邵 勤風 (Benesse教育研究開発センター研究員)

【要旨】

各学校段階での受験予定の有無によって、時間の過ごし方や意識が異なる。受験予定のある子どもはどの学校段階でも勉強時間が長いにもかかわらず、勉強時間をさらに増やしたいと回答している。また、勉強時間の増やし方は各学校段階でそれぞれ特徴がある。中学受験予定がある小学生は睡眠、遊び、テレビなどの時間を、高校受験が迫っている中3生はおもに部活動の時間を削っている。大学受験予定のある高校生はメディアの時間を抑えている。受験という目標は子どもを勉強に向かわせる1つの原動力ではある。しかし、子どもの発達段階によって、子どもの心身への負担が大きいといったマイナス面の影響もある。子どもの成長にとってプラスとなるような受験や時間の過ごし方を考えたい。

1. はじめに

小・中・高校生の1日24時間の過ごし方を規定する要因はさまざまである。受験はそのうち大変重要な要因の1つと考えられる。本章では、受験という切り口から、各学校段階によって、子どもの24時間の過ごし方がどのように違ってくるのかを分析する。さらに、小学校から高校までを通して、それぞれの受験が持つ意味の相違を明らかにし、子どもの生活に与える影響を探る。

2. 中学受験予定別にみる 小学生の生活時間や意識の違い

本調査結果をみると、小5生と小6生では、学年による生活時間や意識の差がそれほど大きくない。学年よりも中学受験予定があるかどうかで子どもの生活時間が大きく異なって

いることがわかる。したがって、本節では、アンケート調査の「あなたは、どこかの中学校(私立、国立、公立中高一貫校など)を受験しようと思っていますか」という設問に対し、「はい」と回答した人を「中学受験予定あり群」、「いいえ」と回答した人を「中学受験予定なし群」とし、両者の24時間の使い方や意識に関する違いを分析する。

まず中学受験予定の有無別に1日の時間配分(「24時間調査」の結果)をみてみよう(図3-1)。特徴としては中学受験予定あり群は、「勉強」時間が長い(中学受験予定あり群163.4分>中学受験予定なし群64.4分、99.0分差、以下同)。一方、中学受験予定なし群は、「睡眠」(488.9分<521.1分、32.2分差)、「メディア」(59.2分<88.4分、29.2分差)、「遊び」(30.5分<46.5分、16.0分差)、「習い事」(24.9分<35.1分、10.2分差)などが長い。ちなみに、「メディア」時間の差は、ほとんど「テレ

ビ・DVD」時間の差によるものである（図表省略）。中学受験予定あり群は睡眠、遊び、テレビなどの時間を削って、勉強時間を増やしているようすがうかがえる。

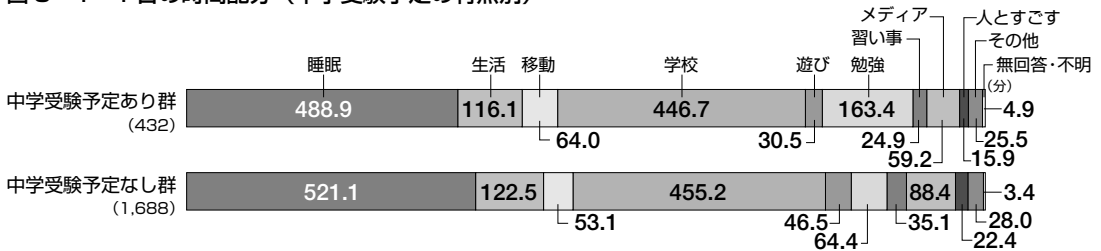
ここでは、勉強時間を取り上げ、その詳細をみでみる。勉強時間の内訳は、「家での勉強（学校の宿題）」「家での勉強（学校の宿題以外）」「学習塾」の3つである。図3-2は中学受験予定の有無別にみた全体平均時間である。この図から2つのことがわかる。1つめは中学受験予定あり群は予定なし群より100分弱、勉強時間が長いこと。2つめは中学受験予定なし群の勉強は学校の宿題が中心であるのに対して、予定あり群は学校外の勉強が中心であること。

次に、時刻別の勉強時間の行為者率をみでみよう（図3-3）。①と②を合わせてみると、まず中学受験予定あり群が夜遅くまで勉強するようすがわかる。22：45に「家での勉強（学校の宿題以外）」に取り組んでいる子どもはまだ1割弱いる。また、中学受験予定の有無により学習スタイルや時間の使い方が異なる

ことも1つの大きな特徴である。中学受験予定あり群で行為者率が1割を超える時間帯をみると、「家での勉強（学校の宿題）」は16：30～17：30、「学習塾」は16：30～21：15（そのうち、17：15～18：45は行為者率が3割を超える）、「家での勉強（学校の宿題以外）」は20：00～22：30となっている。中学受験予定あり群は放課後、まず学校の宿題をやっで、それから学習塾で勉強し、塾から帰宅後、さらに23：00頃まで家庭学習をしているようすがわかる。一方、中学受験予定なし群では、「家での勉強（学校の宿題）」「家での勉強（学校の宿題以外）」「学習塾」という3つの勉強を合わせてみると、だいたい16：00～19：00に集中し、多くの子どもは夕食前までには勉強を済ませている。夕食後の19：30～20：30の間、1割弱の子どもがまだ学校の宿題をやっているが、21：15時点において、何らかの勉強をしている子どもはすでに1割弱に減り、23：00には勉強をしている子どもがほぼいなくなる。

中学受験予定の有無による1日の時間の使

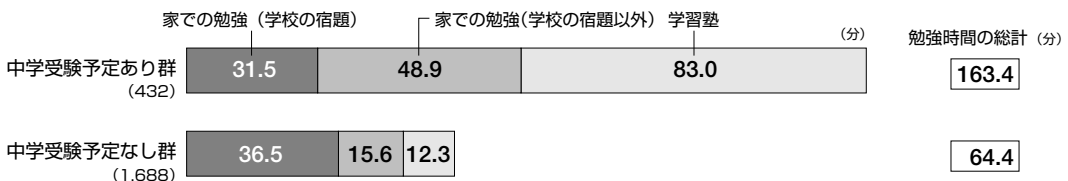
図3-1 1日の時間配分（中学受験予定の有無別）



注1) 「勉強」は「家での勉強（学校の宿題）」「家での勉強（学校の宿題以外）」「学習塾」の合計。図3-7、13も同様。

注2) ()内はサンプル数。

図3-2 勉強の平均時間（1日あたり、中学受験予定の有無別）



注1) 全体を母数にして算出した。

注2) ()内はサンプル数。

い方、とくに勉強時間の違いをみてきた。次に、時間に関する意識の違いをみてみよう。

増やしたい時間の結果を示しているのは図3-4である。上位3位は、中学受験予定の有無に関係なく「友だちと過ごす時間」「外で遊ぶ・スポーツをする時間」「睡眠時間」である。両群の差に注目すると、「睡眠時間」は15.3ポイント差（中学受験予定あり群53.2%、中学受験予定なし群37.9%）、「勉強時間」は8.8ポイント差となっている。中学受験予定あり群は予定なし群と比べて、睡眠時間が短いため、睡眠時間を増やしたい。勉強時間はすでに長い、さらに増やしたい。中学受験予定あり群の子どもたちの切実な気持ちが垣間見える。

図3-5は時間の過ごし方を中学受験予定の有無別に示したものである。中学受験予定あり群と予定なし群との間に、5ポイント以上の差（「とてもあてはまる」＋「わりとあてはまる」の%）がある項目のみを取り上げると、「将来のためにがまんするよりも今を楽しみたい」では、中学受験予定なし群が予

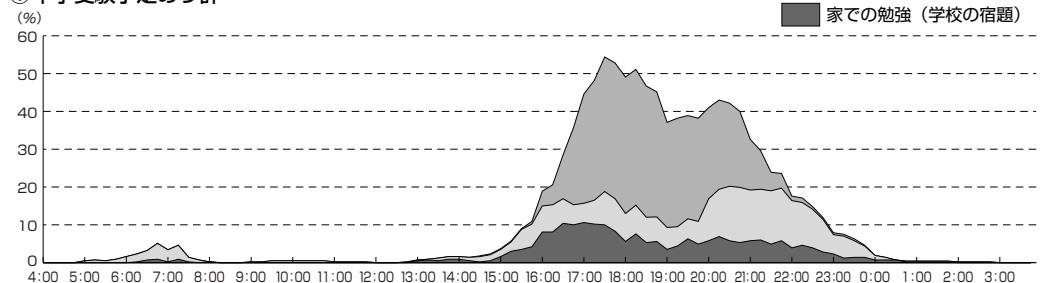
定あり群に比べて、20.4ポイントも高い。一方、中学受験予定あり群のほうが10～20ポイント程度高いのは「計画的に勉強をする」（18.5ポイント差）、「将来の目標がはっきりしている」（13.1ポイント差）、「将来は世界で活躍したい」（11.0ポイント差）である。先のことを考えるより今を楽しみたい、また毎日と比較的楽しいと感じているのは中学受験予定なし群の子どもたちである。これに対して、中学受験予定あり群は将来の目標を持ち、今を楽しむより将来のためにがまんし、計画的に勉強するようすがわかる。

最後に、心や身体の疲れについては、「忙しい」（「とても感じる」の%、以下同）では、中学受験予定あり群が34.3%、予定なし群が15.4%で、両群で18.9ポイント差がある。「疲れやすい」では、中学受験予定あり群が20.6%、予定なし群が14.9%で、5.7ポイント差がある（図3-6）。

以上の分析より、中学受験予定の有無は小5・6生の1日の過ごし方や意識を大きく分化させていることがわかる。

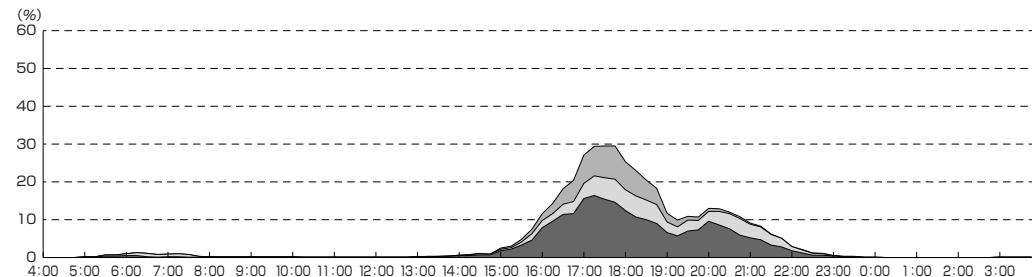
図3-3 勉強時間の時刻別行為者率（中学受験予定の有無別）

① 中学受験予定あり群



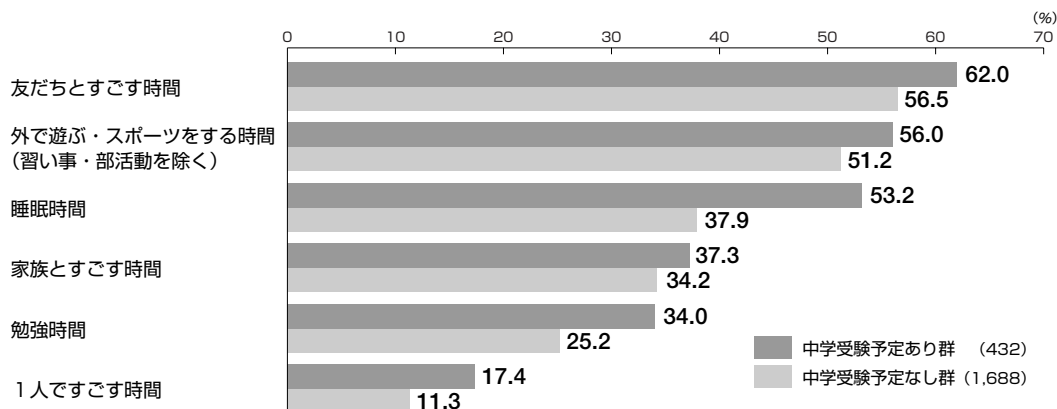
注) サンプル数は432名。

② 中学受験予定なし群



注) サンプル数は1,688名。

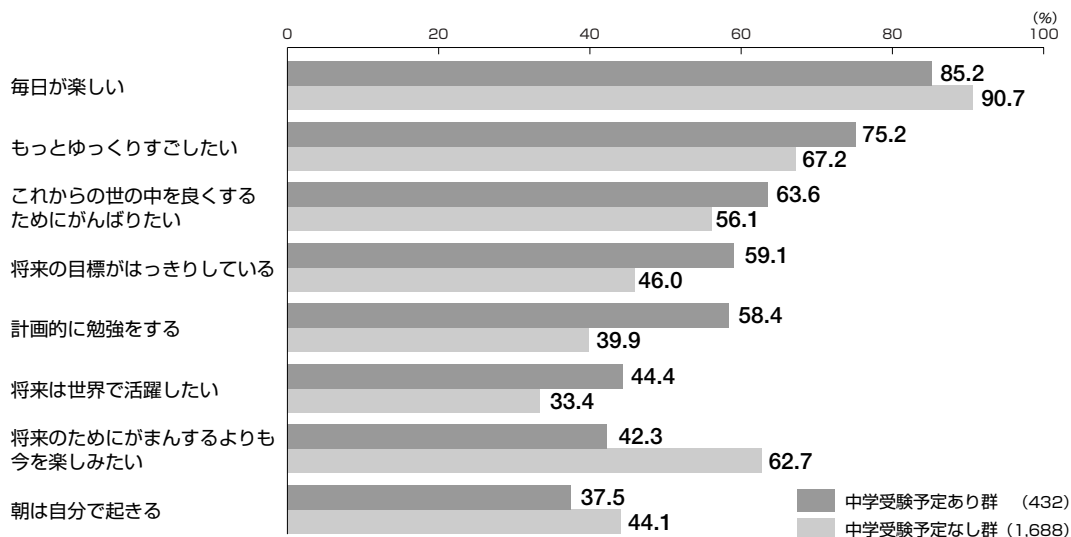
図 3-4 増やしたい時間（中学受験予定の有無別）



注 1) 「あなたは、次のような時間を増やしたいと思いますか」の設問に対して、「増やしたい」と回答した%。

注 2) () 内はサンプル数。

図 3-5 時間のすごし方（中学受験予定の有無別）

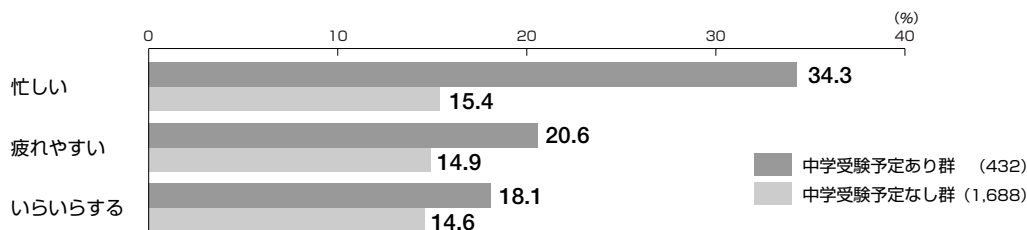


注 1) 「とてもあてはまる」+「わりとあてはまる」の%。

注 2) 「中学受験予定あり群」と「中学受験予定なし群」との間に、5ポイント以上差がみられた項目のみを图示した。

注 3) () 内はサンプル数。

図 3-6 心や身体の疲れ（中学受験予定の有無別）



注 1) 「とても感じる」の%。

注 2) 6項目のうち、3項目を图示した。

注 3) () 内はサンプル数。

3. 高校受験による生活時間や意識の違い

中学校段階の受験といえば、高校受験である。私立中学校の場合、中高一貫校が多いため、高校受験がないケースが考えられる。したがって、正確に分析するため、「通っている中学校の種類」で、「国立大学の附属」「私立」「その他」の回答を除く。また今回のアンケート調査で「あなたは将来、どの学校まで進みたいですか」という設問に対し、「中学校まで」と回答した公立中学校に通っている中学生はわずか0.2%のため、基本的には公立中学校に通っているすべての中学生は高校を受験すると考える。したがって、本節では公立中学校に通っている中学生を分析対象に、中1・2生と、高校受験が迫っている中3生の1日の過ごし方や意識の違いをみていく。

まず1日の時間配分をみてみる(図3-7)。中1・2生は「部活動」(中1・2生77.3分>中3生4.5分、72.8分差、以下同)、「睡眠」(459.0分>428.2分、30.8分差)が長い。一方、中3生は「勉強」(98.5分<184.9分、86.4分差)の

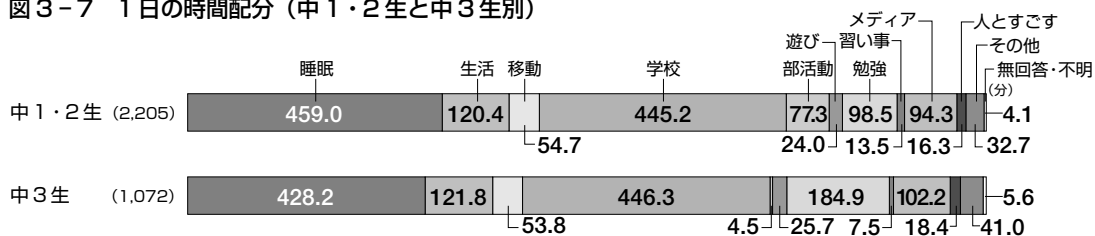
ほうが長い。中3生は高校受験のため、おもに部活動や睡眠の時間を削って、勉強にあてていることがわかる。

ここで、勉強時間の中身をみてみよう。図3-8は全体の平均時間を表している。中3生は中1・2生に比べて、どの勉強スタイルにおいても、時間を増やしている。とくに、「家での勉強(学校の宿題以外)」は50.0分増え、増加幅がもっとも大きい。

次に、勉強時間を取り上げ、時刻別の行為者率を調べる(図3-9)。①と②を合わせて、特徴をまとめると、2つのことがわかる。

1つめは、放課後、中3生は中1・2生より早い時間帯から勉強をスタートしていることである。図表は省略しているが、中3生(公立中学校)の部活動の加入率は25.6%で、全体平均活動時間はわずか4.5分であるのに対して、中1・2生の加入率は9割で、全体平均活動時間は77.3分である。したがって、中3生は中1・2生より早く帰宅するものと考えられる。時間帯別の行為者率をみると、中1・2生では、「学習塾」は19:00~21:15(1割から2割弱)に、「家での勉強(学校の宿題)」

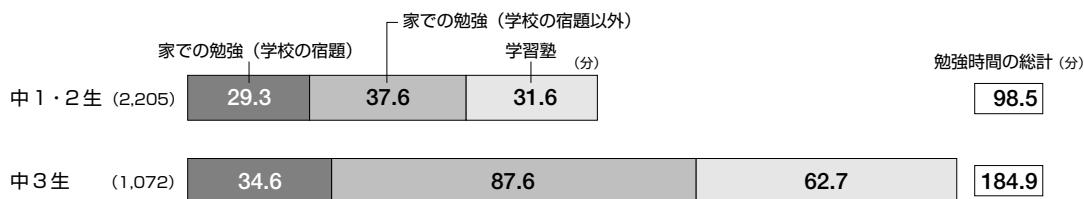
図3-7 1日の時間配分(中1・2生と中3生別)



注1) 「公立」の中学校に通っている中学生のみ分析した。図3-8~12も同様。

注2) ()内はサンプル数。

図3-8 勉強の平均時間(1日あたり、中1・2生と中3生別)



注1) 全体を母数にして算出した。

注2) ()内はサンプル数。

は20:00~22:00(1割前後)に、「家での勉強(学校の宿題以外)」は20:00~22:45(1割前後)に集中している。一方、中3生では、学習塾での勉強は19:00~21:15(2割から3割弱)に、「家での勉強(学校の宿題以外)」は21:45~22:45(2割)に集中している。「家での勉強(学校の宿題)」についてはどの時刻でも1割を超えることはなく、17:00~18:00、20:00~22:45に分散していることがわかる。また、18:00に家で何らかの勉強をしている中1・2生は17.0%であるのに対して、中3生は34.6%にのぼる。2つめの特徴は、中3生のほうが中1・2生より夜遅くまで勉強していることである。0:45に注目すると、まだ勉強している中1・2生はほとんどみられない(0.7%)のに対して、中3生では7.8%いる。さらに中3生は朝の5:00台から6:00台でも、わずかではあるが、勉強している子どもがいる。

前述してきたように、高校受験があるため、

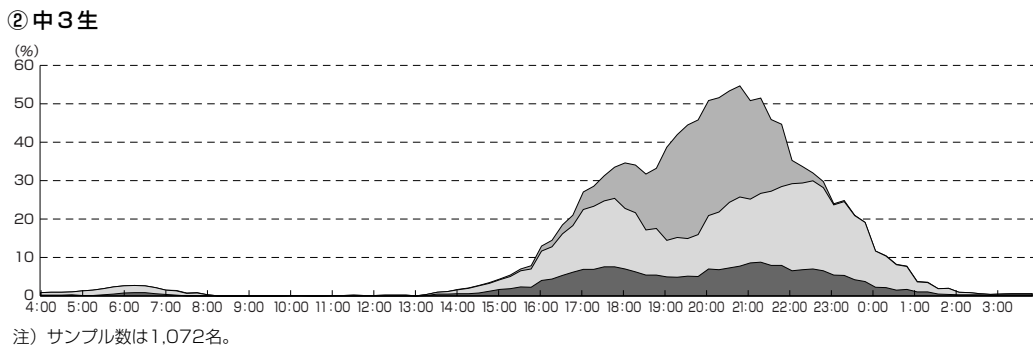
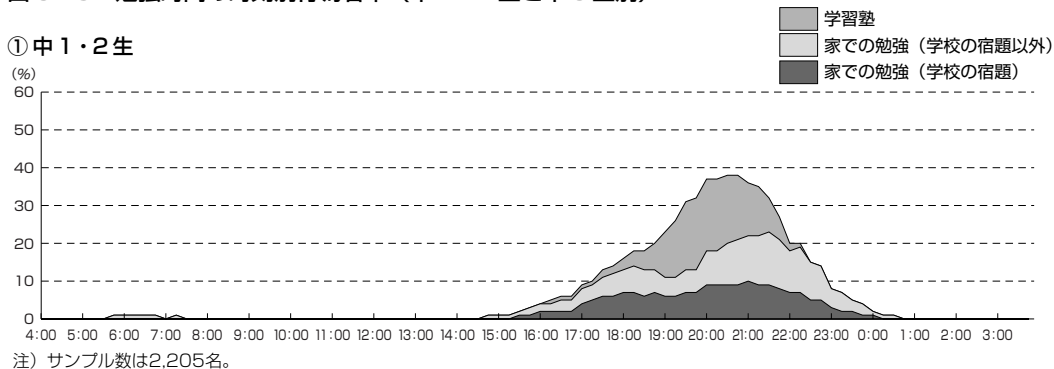
中3生は中2生までの部活動中心の生活から、勉強中心の生活に切り替えていることがわかる。

ここで、時間に関する意識をみてみよう。

増やしたい時間では(図3-10)、中3生の全体平均「勉強時間」は184.9分で、中1・2生より80分以上長いにもかかわらず(図3-7)、66.0%の中3生が「勉強時間」を「増やしたい」と回答している。一方、中1・2生は47.0%である。「勉強時間」以外に、中3生のほうが「増やしたい」の回答比率が高いのは「外で遊ぶ・スポーツをする時間」である。もっと勉強したい(あるいは勉強しないといけない)が、遊びもしたいというのが中3生の姿である。

時間の過ごし方の結果を示しているのは図3-11である。6割(「とてもあてはまる」+「わりとあてはまる」の%、以下同)の中1・2生が「将来のためにがまんするよりも今を楽しみたい」と回答しているが、中3生になる

図3-9 勉強時間の時刻別行為者率(中1・2生と中3生別)



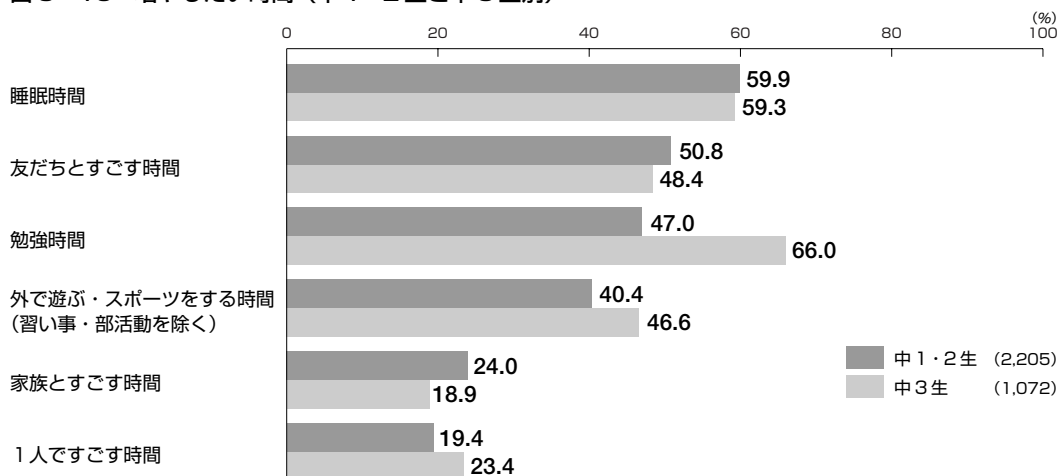
と、5割に減っている。一方、中3生の回答比率が高いのは「人に言われなくても自分から勉強する」(中3生60.3%、中1・2生46.4%、以下同)、「時間をむだに使っていると感じる」(70.3%、60.3%)、「将来の目標がはっきりしている」(45.3%、39.6%)である。勉強もしたい、遊びなど、さまざまな活動もしたいからこそ、もっと時間を有効に使いたいと考えているのだろう。また、自ら勉強するのも、将来のことを考えるのもやはり高校

受験がきっかけになっていると考えられる。

最後に、高校受験が子どもの心身に何か影響を与えているのかをみてみよう(図3-12)。

「自分に自信が持てない」「疲れやすい」では、「とても感じる」と回答した中3生は中1・2生より5ポイント以上多い。また「やる気が起きない」「いらいらする」の回答比率も中3生のほうが高い。勉強に忙しい中3生は全般的にストレスが多いことがわかる。

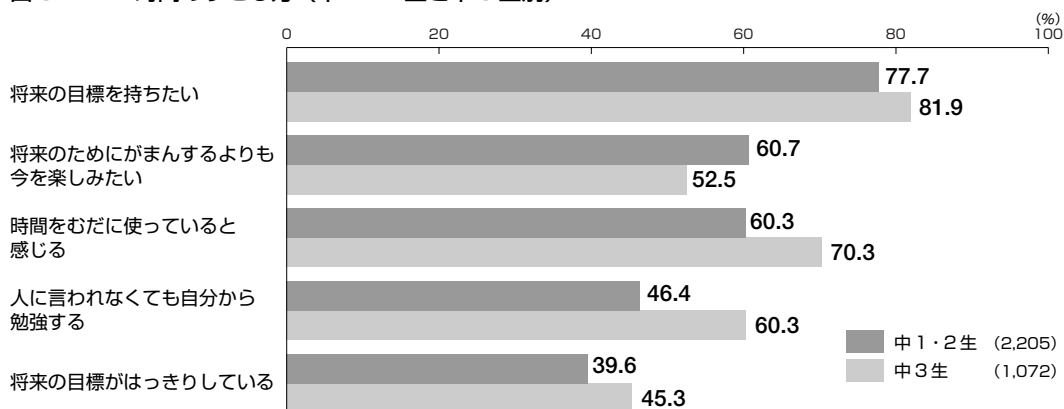
図3-10 増やしたい時間(中1・2生と中3生別)



注1)「あなたは、次のような時間を増やしたいと思いますか」との設問に対して、「増やしたい」と回答した%。

注2) ()内はサンプル数。

図3-11 時間のすごし方(中1・2生と中3生別)

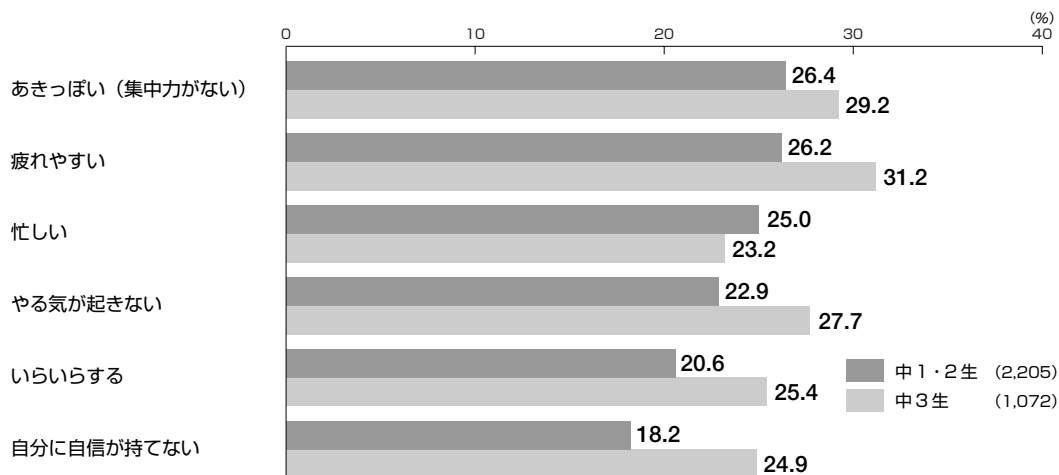


注1)「とてもあてはまる」+「わりとあてはまる」の%。

注2) 16項目のうち、5項目を図示した。

注3) ()内はサンプル数。

図3-12 心や身体の疲れ（中1・2生と中3生別）



注1)「とても感じる」の%。
注2) ()内はサンプル数。

4. 大学受験による生活時間や意識の違い

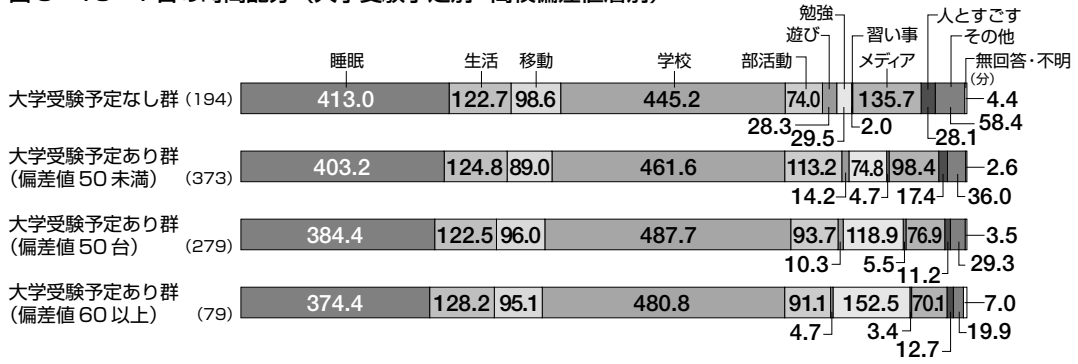
本節では、「あなたは将来、どの学校まで進みたいですか」の設問に対して、「高校まで」と回答した高校生を大学受験予定なし群とし、「短期大学まで」「四年制大学まで」「大学院まで」と回答した高校生を大学受験予定あり群とする。大学受験予定あり群のなかでは、通っている高校の偏差値をもとに、偏差値50未満、偏差値50台、偏差値60以上とさらに分ける。したがって、大学受験予定なし群、大学受験予定あり群（偏差値50未満）、大学受験予定あり群（偏差値50台）、大学受験予定あり群（偏差値60以上）と、全部で4つの群について、高校生の大学受験による生活時間や意識の違いを検討していく。

まず、1日の時間配分を比較したい(図3-13)。「睡眠」では、もっとも長いのは大学受験予定なし群の413.0分で、もっとも短いのは大学受験予定あり群（偏差値60以上）の374.4分である。両群では約40分の差がある。「メディア」も同様に、もっとも長いのは大学受験予定なし群の135.7分で、もっとも短いのは大学受験予定あり群（偏差値60以上）の70.1分

である。両群では1時間以上の差がある。大学受験予定なし群から大学受験予定あり群（偏差値60以上）にかけて、睡眠時間もメディア時間も短くなるのが1つの大きな特徴である。一方、大学受験予定なし群から大学受験予定あり群（偏差値60以上）にかけて、時間が長くなるのが「勉強」で、大学受験予定なし群と大学受験予定あり群（偏差値60以上）では123.0分の差がある。「部活動」については、もっとも長いのは大学受験予定あり群（偏差値50未満）で113.2分であるが、もっとも短いのは大学受験予定なし群で74.0分である。大学受験予定あり群は、大学受験があるからといって部活動を減らしているわけではなく、勉強も部活動もがんばっているようである。逆に大学受験予定なし群はメディアに費やす時間が長い。ここには図表を載せてはいないが、大学受験予定なし群はアルバイトをする比率が高く、時間も長いので、勉強時間や部活動の時間よりメディアやアルバイトなどに時間を使っていると考えられる。

ここで、メディア時間の詳細をみてみたい(図3-14)。「メディア」に関しては、「テレビ・DVD」「本・新聞」「マンガ・雑誌」「音楽」「携帯電話」「パソコン」についてたずね

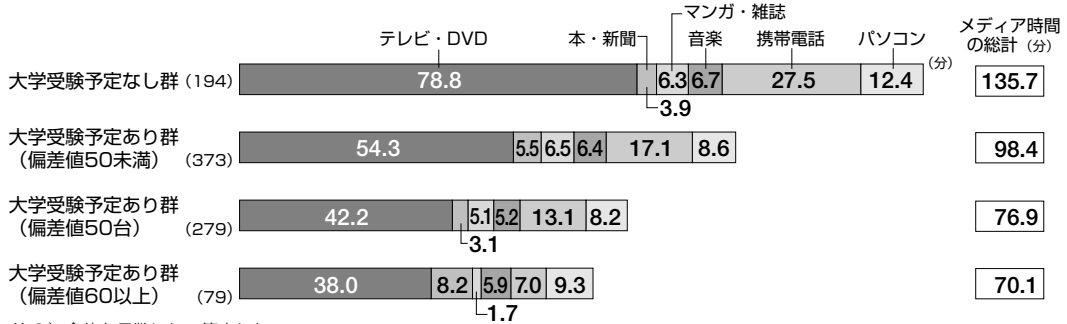
図3-13 1日の時間配分（大学受験予定別・高校偏差値層別）



注1) 「あなたは将来、どの学校まで進みたいですか」の設問に対して、「高校まで」と回答した高校生を「大学受験予定なし群」とし、「短期大学まで」「四年制大学まで」「大学院まで」と回答した高校生のうち、さらに高校偏差値層では、34.8～49.9にあたる高校生を「大学受験予定あり群（偏差値50未満）」、50.0～59.9にあたる高校生を「大学受験予定あり群（偏差値50台）」、60.0～70.2にあたる高校生を「大学受験予定あり群（偏差値60以上）」とする。なお、「専門学校まで」「その他」「わからない」と回答した高校生は分析から除いた。図3-14～18、表3-1～3も同様。

注2) () 内はサンプル数。

図3-14 メディア時間の合計（1日あたり、大学受験予定別・高校偏差値層別）



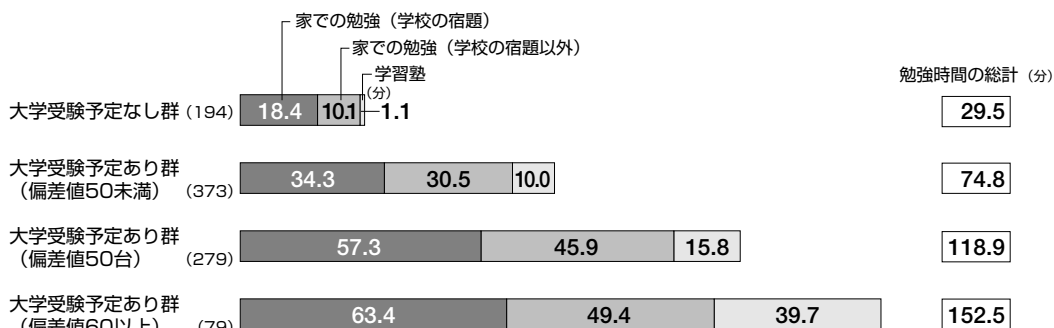
注1) 全体を母数にして算出した。
 注2) 「メディア」は「テレビ・DVD」「本・新聞」「マンガ・雑誌」「音楽」「携帯電話」「パソコン」の合計。
 注3) () 内はサンプル数。

ている。大学受験予定の有無に関係なく、もっとも多くの時間を費やしているのは「テレビ・DVD」である。ただし、その時間をみると、大学受験予定なし群では78.8分であるのに対して、大学受験予定あり群（偏差値60以上）では38.0分で、両群では40.8分の差がある。また、大学受験予定なし群は、「テレビ・DVD」に次ぎ、「携帯電話」に27.5分の時間を使っているが、大学受験予定あり群（偏差値60以上）ではわずか7.0分となる。両群では、20.5分の差がある。ほかのメディアについては、どの群も時間が短いので、メディア全体の時間の長さを決めるのは「テレビ・DVD」と「携帯電話」であると考えられる。

次に、勉強の時間を取り上げてみよう。

図3-15の全体平均時間をみると、どの群でも、「家での勉強（学校の宿題）」が「家での勉強（学校の宿題以外）」「学習塾」より長く、高校生の勉強は学校の宿題中心であることが1つの特徴といえよう。詳しくみると、大学受験予定なし群はもっとも多い「家での勉強（学校の宿題）」であっても、わずか18.4分、全体の勉強時間は29.5分しかない。一方、大学受験予定あり群、さらにそのなかの偏差値別でみると、トータルの勉強時間では、偏差値50未満が74.8分、偏差値50台が118.9分、偏差値60以上が152.5分と、偏差値が高くなるにつれ、勉強時間が長くなる傾向である。勉強時間がもっとも短い大学受験予定なし群と大学受験予定あり群（偏差値60以上）との間は

図3-15 勉強の平均時間（1日あたり、大学受験予定別・高校偏差値層別）



注1) 全体を母数にして算出した。

注2) ()内はサンプル数。

120分以上の差、大学受験予定あり群のなかでも、偏差値50未満と偏差値60以上との間は77.7分の差が開いている。高校では、大学受験予定の有無、また大学受験予定あり群のなかでも、偏差値によって、勉強時間がずいぶん違って来る。高校生の勉強時間がかなり分化していることがわかる。

さらに、どれくらいの高校生がどの時間帯でどのような勉強をしているのかについて、大学受験予定別に分析したい。図3-16の①～④はそれぞれ大学受験予定なし群、大学受験予定あり群（偏差値50未満）、大学受験予定あり群（偏差値50台）、大学受験予定あり群（偏差値60以上）の勉強時間に関する時刻別行為者率を示している。この4つの図から、いくつか特徴的なデータをピックアップし、表にしてみた（表3-1）。図3-16と表3-1から以下のことが読み取れる。

1つめは、放課後、大学受験予定なし群より大学受験予定あり群のほうが早く勉強をスタートしていることである。大学受験予定なし群では、勉強をしている子どもは21:30より早く1割を超える。一方、大学受験予定あり群（偏差値60以上）では、17:45からすでに1割が勉強を始めている（図3-16）。2つめは、勉強のピークの時間帯やその行為者率は大学受験予定の有無、また大学受験予定があるなかでも、偏差値によって異なることである。とくに行為者率をみると、大学受験予

定なし群は、ピークの時間帯でも約17%にとどまっている。また、大学受験予定あり群のなかでも、偏差値が高くなるにつれ、行為者率が高くなる傾向がみられる。大学受験予定あり群（偏差値60以上）は、21:00台では5割を超える行為者率となる。3つめは、大学受験予定なし群より大学受験予定あり群、さらに大学受験予定あり群のなかでも、偏差値の高い高校生のほうが夜遅くまで勉強していることである。0:00の行為者率をみると、大学受験予定なし群では勉強している高校生がほとんどいないと言ってもよい。大学受験予定あり群（偏差値50未満）でも1割未満である。しかし、大学受験予定あり群（偏差値60以上）だと、2割以上が勉強している。逆に、0:00にまだ起きている大学受験予定なし群の行動をみると、4.1%が「テレビ・DVD」、7.2%が「携帯電話」と回答している（図表省略）。大学受験予定の有無によって、高校生の時間の使い方が大きく異なることがわかる。

それでは、時間に関する意識もみていこう。増やしたい時間では、大学受験予定なし群より予定あり群のほうが「睡眠時間」「勉強時間」を「増やしたい」と回答した比率が高い（図3-17）。とくに「勉強時間」では、大学受験予定なし群の36.6%に対して、大学受験予定あり群（偏差値60以上）は86.1%で、両者の間には、約50ポイントの差がある。大学受験予定のある高校生、また偏差値の高い高

図3-16 勉強時間の時刻別行為者率（大学受験予定別・高校偏差値層別）

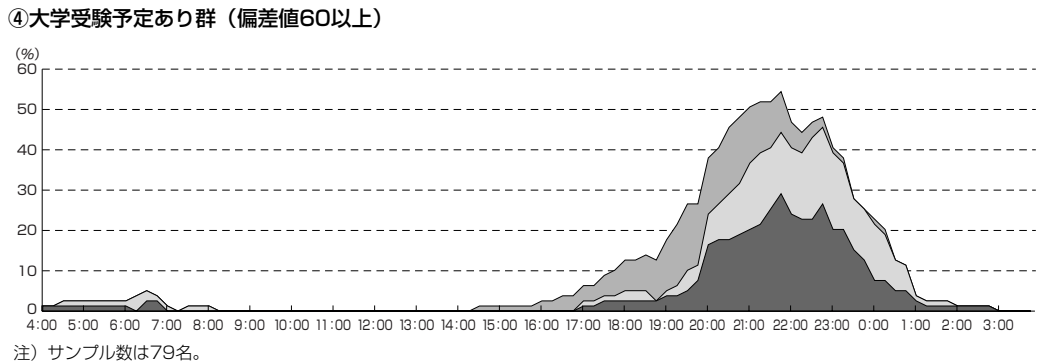
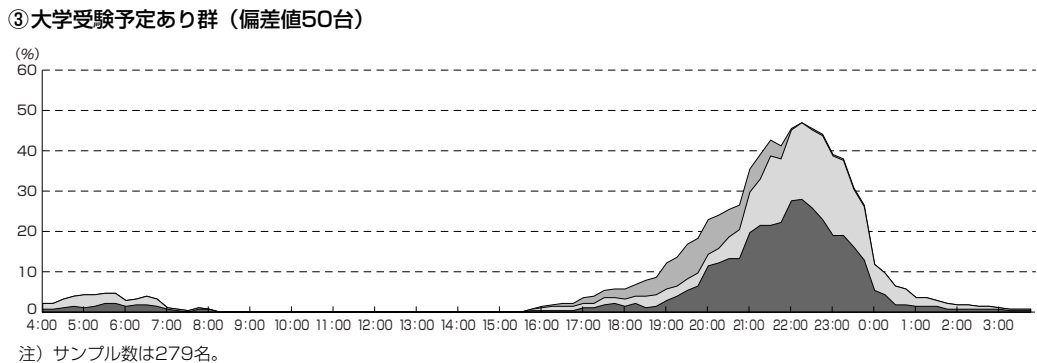
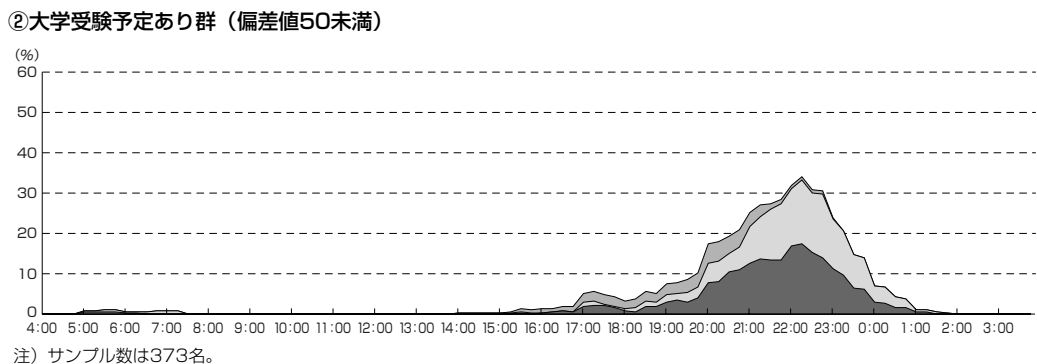
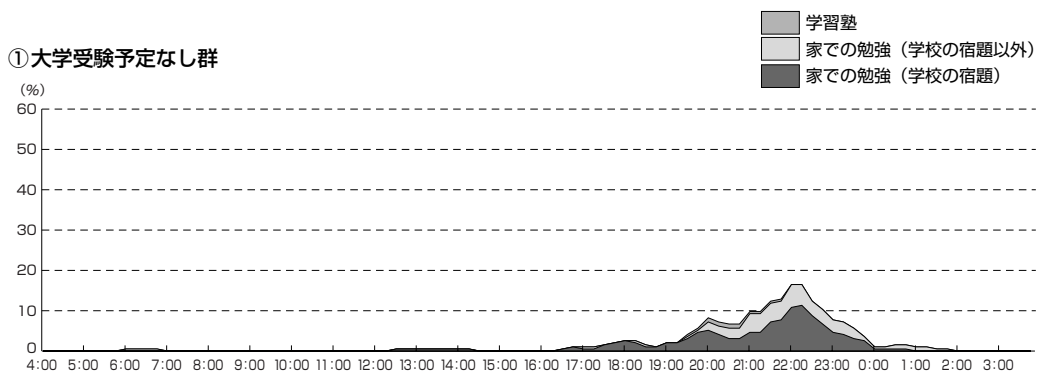


表 3-1 勉強時間の時刻別行為者率の特徴（大学受験予定別・高校偏差値層別）

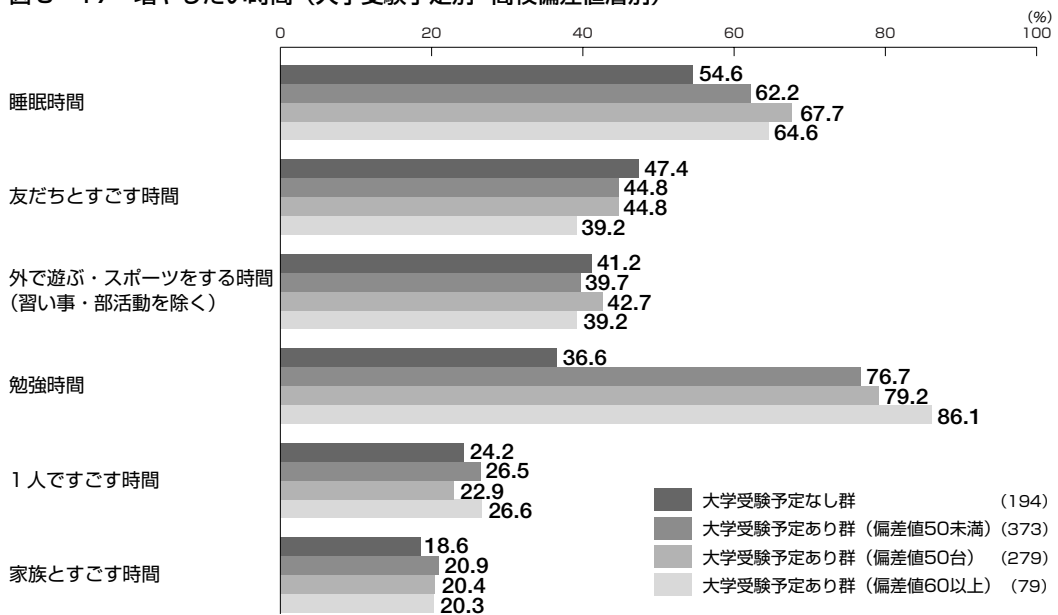
	勉強をスタートする時刻 (1割以上の行為者率)	ピークの時間帯・ 行為者率	収束の時刻・ 行為者率	0時の 行為者率
大学受験予定なし群 (194)	21:30	21:00～23:15 1割前後	23:30 5.7%	1.0%
大学受験予定あり群 (偏差値50未満) (373)	19:45	20:45～23:15 2割～3割	0:15 6.7%	7.0%
大学受験予定あり群 (偏差値50台) (279)	19:00	21:00～23:30 3割～4割	0:45 5.7%	11.8%
大学受験予定あり群 (偏差値60以上) (79)	17:45	20:15～23:00 4割～5割	1:00 3.8%	22.8%

注1) ここでの行為者率は時刻別の「家での勉強（学校の宿題）」「家での勉強（学校の宿題以外）」「学習塾」の3つの勉強を合わせた行為者率を指している。

注2) ピークの時間帯も注1)の3つの勉強時間を合わせた勉強全体での比率がもっとも高い時間帯を指している。

注3) ()内はサンプル数。

図 3-17 増やしたい時間（大学受験予定別・高校偏差値層別）



注1) 「あなたは、次のような時間を増やしたいと思いますか」との設問に対して、「増やしたい」と回答した%。

注2) ()内はサンプル数。

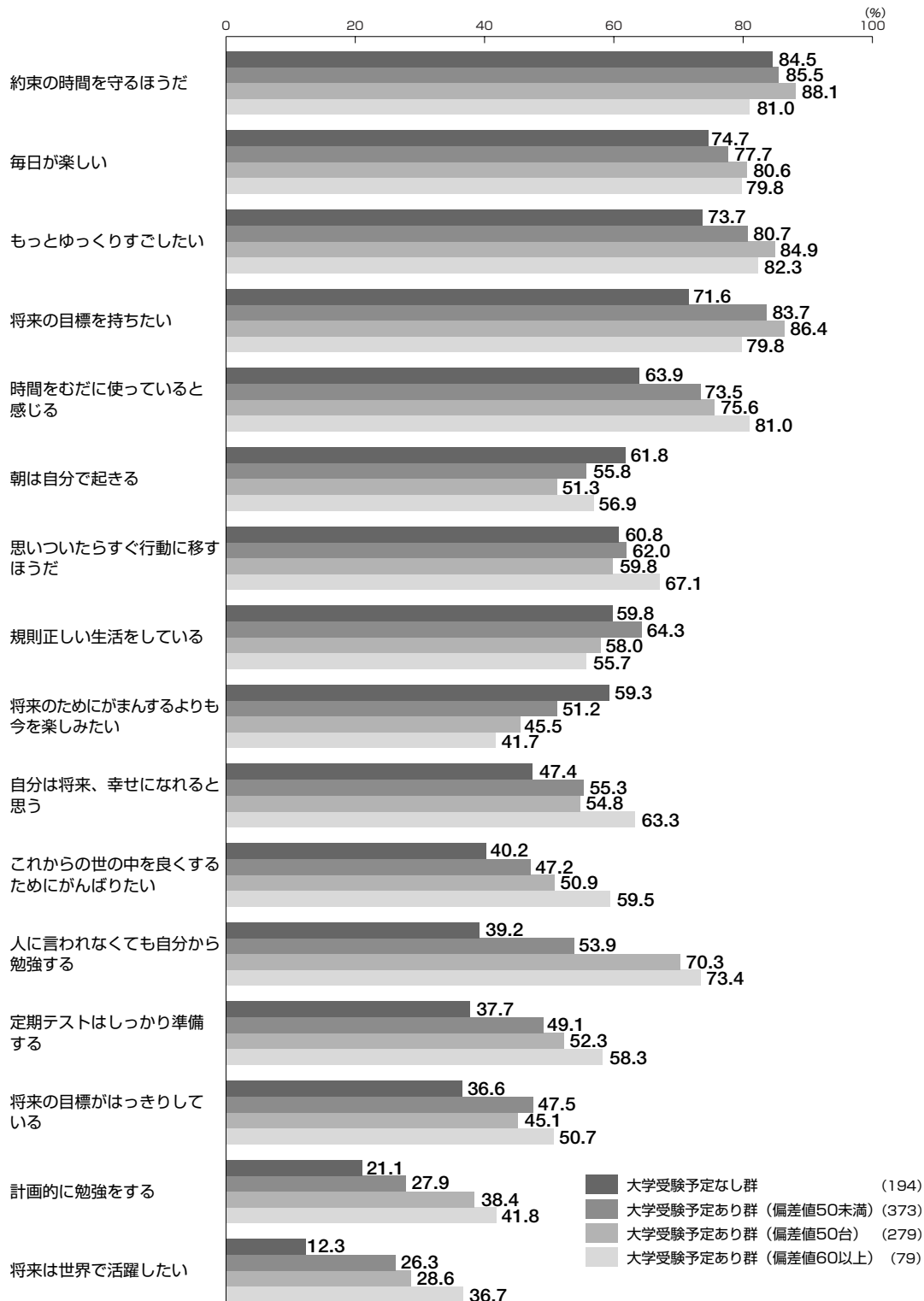
校生ほど、よく勉強しているにもかかわらず、さらに勉強時間を増やしたいと感じている。大学受験という目標が勉強に向かわせる原動力となっているのだろう。

時間の過ごし方をみると、ほとんどの項目で、大学受験予定の有無による差がみられる(図3-18)。勉強の計画性、行動力、将来の目標がはっきりしているかどうか、また目標を持ちたいかどうか、毎日の生活の楽しさなどを示す項目では、「とてもあてはまる」＋「わりとあてはまる」の比率は、大学受験予

定あり群のほうが高い傾向にある。大学受験予定なし群のほうが比率が高いのは「将来のためにがまんするよりも今を楽しみたい」と「朝は自分で起きる」のわずか2項目である。

高校生の生活をまとめると、大学受験予定あり群は睡眠やメディア時間が短く、勉強時間が長い。部活動もそれなりにやっている。大学受験予定なし群はメディア時間が長く、勉強時間が短い。大学受験予定の有無、また大学受験予定あり群でも偏差値によって、時間の過ごし方や意識が異なることがわかる。

図3-18 時間のすごし方（大学受験予定別・高校偏差値層別）



注1) 「とてもあてはまる」+「わりとあてはまる」の%。

注2) ()内はサンプル数。

5. 小・中・高校生での 受験が持つ意味の違い

第4節までは、それぞれの学校段階で、受験するかどうかによる子どもの時間の過ごし方の違いを述べてきた。ここまでの分析を横軸とすれば、本節では、小・中・高校生の縦軸で受験が持つ意味の違いや子どもの時間の使い方や過ごし方にもたらす影響の違いについて考察を行いたい。以下の4つのことにまとめられる。

1つめは、子どもの時間の過ごし方を分化する各学校段階の受験率が異なることである。本調査結果をみると、小学生の16.6%が中学を受験する予定がある（「どこかの中学校（私立、国立、公立中高一貫校など）を受験しようと思っていますか」に対する「はい」の回答、巻末基礎集計表参照）。つまり小学生では、中学受験予定の有無で、約17%の中学受験生とそれ以外の小学生の時間の過ごし方が分化している。一方、公立中学校の中3生のほとんどが高校を受験する。中学生は3年生になると、ほぼみんな一斉に高校受験に向かうわけで、中3生のなかでの時間の過ごし方による違いはあまりない。高校生の場合、6割が大学を受験する予定がある（「あなたは将

来、どの学校まで進みたいですか」に対して、「短期大学まで」「四年制大学まで」「大学院まで」を合わせた回答比率の合計は64.1%、巻末基礎集計表参照）。大学受験予定の有無によって、6割の受験生と4割の非受験生の時間の過ごし方が分かれる。さらに大学受験予定あり群のなかで、偏差値50未満が5割、50台が4割弱、60以上が1割いるため、偏差値によって、時間の過ごし方がさらに細分化されていることになる。

2つめは、勉強時間については、学校段階による量やスタイルが異なることである。表3-2の全体平均時間をみると、中学受験予定あり群は163.4分、中3生（高校受験生）は184.9分、大学受験予定あり群は94.5分である（大学受験予定あり群（偏差値60以上）は152.5分）。大学受験直前の高3生のデータがないが、今回のサンプルでは高校受験生（中3生）の勉強時間がもっとも長いことがわかる。また、勉強スタイルをみると、中学受験予定あり群は「学習塾」が、中3生は「家での勉強（学校の宿題以外）」が、大学受験予定あり群は「家での勉強（学校の宿題）」が中心であることがわかる。

3つめは、高校生は大学受験予定の有無、さらに通っている高校の偏差値によって、勉

表3-2 全体の平均勉強時間（1日あたり、各学校段階の受験予定別）

		(分)				
		家での勉強 (学校の宿題)	家での勉強 (学校の宿題以外)	学習塾	合計	
小学生	中学受験予定なし群	(1,688)	36.5	15.6	12.3	64.4
	中学受験予定あり群	(432)	31.5	48.9	83.0	163.4
中学生	中1・2生	(2,205)	29.3	37.6	31.6	98.5
	中3生	(1,072)	34.6	87.6	62.7	184.9
高校生	大学受験予定なし群	(194)	18.4	10.1	1.1	29.5
	全体	(1,167)	41.9	37.9	14.7	94.5
	大学受験 予定あり群	(偏差値50未満) (373)	34.3	30.5	10.0	74.8
		(偏差値50台) (279)	57.3	45.9	15.8	118.9
	(偏差値60以上) (79)	63.4	49.4	39.7	152.5	

注1) 全体を母数にして算出した。

注2) 中学生の数値は、公立中学校に通っている中学生のみ分析した。表3-3も同様。

注3) ()内はサンプル数。

強時間が二極分化していることである（表3-2）。中学受験予定の有無では、勉強時間については99.0分の差、中1・2生と高校受験生の中3生との間には86.4分の差、大学受験予定の有無では、64.9分の差がある。さらに、大学受験予定あり群に絞ってみると、偏差値60以上と偏差値50未満とでは、77.7分の差がある。また、偏差値60以上と大学受験予定なし群との間には122.9分もの差が開いている。したがって、大学受験予定なし群と大学受験予定あり群（偏差値60以上）との差がもっとも大きい。トータルの勉強時間をみると、大学受験予定のない高校生は中学受験予定のない小学生の半分にも達していない。どの学校段階をみても、受験予定のある子どもは勉強中心の生活を送っている。しかし、受験予定のない子どもについては、中学受験予定なし群の小学生はメディアや遊び、習い事に時間を使い、中1・2生は部活動に励み、大学受験予定なし群の高校生はメディアやアルバイトに時間を使い、学校段階による時間の使い方には違いがみられる。とくに大学受験予定のない高校生のメディア時間の長さや勉強時間の短さが目立つ。

4つめは、受験による心や身体の疲れが異なることである（表3-3）。全般的には受験

予定の有無に関係なく、学校段階が上がるにつれ、ほとんどの項目での回答比率（「とても感じる」の%）が上がる傾向がある。とくに「疲れやすい」「忙しい」については、中学受験予定あり群が中学受験予定なし群より「とても感じる」の回答比率が高い。たしかに、ほとんどの学校段階で、睡眠時間やメディアの時間を削って（中3生のメディアの時間は中1・2生とそれほど変わらない（図3-7参照）、勉強時間を増やし、受験に向かっている。しかし、そのなかで、中学受験予定あり群の「増やしたい」時間をみて、「外で遊ぶ・スポーツをする時間」「友だちと過ごす時間」と回答したのはそれぞれ5割強と6割であることを合わせて考えると、中学受験予定あり群は高校・大学の受験予定あり群よりもさらにさまざまな活動時間を削って、受験勉強にあてているので、心身への影響が大きいと推測される。

小学校段階で中学受験を経て、私立や国立、公立中高一貫校に入る子どものほとんどにとって、次の受験は大学受験になる。その子どもたちはここでいうと、大学受験予定あり群（偏差値50台）か大学受験予定あり群（偏差値60以上）にあてはまる可能性が高いと思われる。前述したように、大学受験予定なし群

表3-3 心や身体の疲れ（各学校段階の受験予定別）

		(%)						
			疲れやすい	いらいら する	あきっぽい (集中力がない)	やる気が 起きない	忙しい	自分に自信 が持てない
小学生	中学受験予定なし群	(1,688)	14.9	14.6	15.8	10.4	15.4	11.2
	中学受験予定あり群	(432)	20.6	18.1	16.9	9.7	34.3	12.0
中学生	中1・2生	(2,205)	26.2	20.6	26.4	22.9	25.0	18.2
	中3生	(1,072)	31.2	25.4	29.2	27.7	23.2	24.9
高校生	大学受験予定なし群	(194)	31.4	22.2	30.4	27.3	24.7	22.2
	(偏差値50未満)	(373)	33.8	22.0	29.0	27.6	28.4	25.7
	大学受験 予定あり群	(279)	31.5	18.6	26.2	28.7	35.8	26.5
	(偏差値60以上)	(79)	35.4	19.0	29.1	22.8	41.8	21.5

注1) 「とても感じる」の%。

注2) () 内はサンプル数。

と予定あり群、さらに大学受験予定あり群のなかで偏差値の高い群とそうでない群とでは、勉強時間などを含めて、時間の過ごし方が大きく異なる。つまり小学校段階で中学受験をするかどうか、その後の子どもの生活や時間の過ごし方を分化させている可能性があると考えられる。

受験という目標は子どもを勉強に向かわせる1つの原動力ではある。しかし、受験勉強があるゆえ、遊べない、友だちと一緒にいられない、また身体の疲れやストレスなど、マ

イナス面の影響もある。とくに中学受験は高校受験や大学受験と比べて、前述したようにさまざまなことをがまんし、勉強以外の多くの活動時間を削らざるを得ないことにつながるため、心身の疲れ、ストレスが多いといったマイナス面の影響が目立つ。本調査結果からもわかるように、受験は子どもたちの生活や時間の過ごし方に大きな影響を与える。それぞれの時期の子どもの成長にプラスになるような受験とは何か、またその時期の適切な時間の過ごし方を考えたい。